

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 5 月 10 日現在

機関番号：32689

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2011～2013

課題番号：23650398

研究課題名(和文) 地域スポーツボランティアのマネジメントシステム構築に向けた基礎研究

研究課題名(英文) Primary consideration for the construction of a management system for sport volunteers in community

研究代表者

作野 誠一 (Sakuno, Seiichi)

早稲田大学・スポーツ科学学術院・准教授

研究者番号：60336964

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,300,000円、(間接経費) 390,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、日常的・継続的スポーツボランティアに対するマネジメントシステムの構築に向けた問題点の把握ならびに基本的な考え方について検討することを目的とした。文献レビュー及び国内外の事例分析を通じて、「調達」「開発」「維持」という局面を分析視点として導入することにより、研究課題が体系的に整理されること、調達及び開発の局面では、資格・人材開発に対する姿勢が「無関心-資格至上主義」に二極化していること、主体的な人材育成・能力開発視点の欠如といった問題を指摘した。また維持の局面では、処遇をめぐる金銭的報酬への収斂傾向、非金銭的報酬に対する無関心、スタッフの処遇改善に消極的な傾向などを指摘した。

研究成果の概要(英文)：This study was intended to examine the basic understanding of the problems for the construction of a management system for continuous sport volunteers in community. By through literature review and case studies, it became apparent that applying three aspects, "procurement", "development" and "maintenance" results in a systematic understanding the problems of human resource management. In the aspect of "procurement" and "development", problem of lack of perspective of human resource development initiative by the staff were pointed out. Further, in the aspect of "maintenance", the trends such as convergence to the monetary reward in treatment, indifference to non-monetary reward, reluctant to improve treatment of staff were pointed out.

研究分野：総合領域

科研費の分科・細目：健康スポーツ科学 ・ スポーツ科学

キーワード：スポーツボランティア 地域スポーツ

1. 研究開始当初の背景

総合型クラブの育成をはじめとして、地域スポーツの振興に関わる課題の多くは、しくみを支える人材 (human resources) の問題に帰着する。スポーツによって期待されるさまざまな効果が、活動の継続性によって担保されるものであるならば、人びとの日常的・継続的な活動を直接支える条件としての人材の整備は、きわめて重要な課題であるといえる。この問題は、スポーツボランティア・マネジメント研究の文脈において課題化されるが、これまでのボランティア研究は、いわゆる「イベント・ボランティア」が中心であり、クラブを支えるような「日常的・継続的活動」を捉えたものは殆どみられない。また研究方法の点で分析対象が国内事例にとどまっているため、結果的に国内の実態報告の域を出ないものが多く、必ずしも効果的な人材育成への提言ができていない状況にある。

2. 研究の目的

本研究は、日常的・継続的スポーツボランティアに対するマネジメントシステムの構築に向けた問題点の把握と基本的な考え方について検討することを目的とした。

3. 研究の方法

(1)平成 23 年度の後半から平成 24 年度にかけて、本務校の制度を利用してオーストラリアに赴き、国際マラソン大会を事例として、スポーツボランティアの調達・開発・維持の状況について情報収集を行った。またスポーツボランティア研究を含むスポーツマネジメント研究・教育の現況について、現地校のカリキュラム分析ならびに研究者へのヒアリングを実施・調査した。

(2)平成 25 年度は、実質的にはボランティアと目される運動部活動の外部指導員の活用に関わる問題に焦点をあてて、それに関連す

るアーカイバルデータをもとに内容を整理するとともに、実際の国内事例にあたって詳細な分析を行った。その結果をもとに、地域スポーツボランティアのマネジメントシステム構築に向けた基本的な考え方について提言を行った。

4. 研究成果

(1)オーストラリア滞在中には国際的なマラソン大会のボランティア・マネジメントについて情報収集を行った。厳密に言えば、イベント・ボランティアは日常的・継続的ボランティアとは区別されるが、この経験を通じてボランティアの本質において共通する部分がかかなりあることが明らかになった。

国際比較の観点を導入するには、海外における状況とともに、関連研究領域についての深い理解が求められるが、その一つの試みとして、スポーツボランティア研究を含むスポーツマネジメント研究・教育の現況について現地校のカリキュラム分析、さらには現地研究者へのヒアリングも実施し詳細な分析を行った。研究動向については、学会大会の演題から、ボランティア研究、組織論、マーケティング研究などが比較的多く報告されていること、教育については、プログラムデザインの考え方や専門性の捉え方が、わが国とはずいぶん異なる点などを指摘した。

(2)ここではまず、「調達」「開発」「維持」という3つのプロセス(局面)を念頭に置き、そこから導かれた外部指導者の「調整」「探索」「報酬」という3つのキーワードから運動部活動の理想と現実のギャップを埋める方策について提案した。ここから示唆されたことは、マネジメントのプロセス(局面)という分析視点を明示的に採用することによって研究課題が体系的に整理された形で把握できるということであった。このことは人材マネジメントにおけるプロセス思考の導入によって条件整備の視点を設定すること

が可能であることも意味している。

本研究では、総合型クラブを想定し、下表に示すような「指導スタッフ」「運営スタッフ」別にみた人材マネジメントの課題をまとめとして例示することができた。これらの分析を通じて、「調達」「開発」の局面では、資格・人材開発に対する姿勢が「無関心 - 資格至上主義」に二極化していること、主体的な人材育成・能力開発（内部化）視点の欠如といった問題が指摘された。また、「維持」の局面では、処遇をめぐる金銭的報酬への収斂傾向、非金銭的報酬に対する関心の低さ、スタッフの処遇改善に消極的な傾向が指摘された。

地域スポーツに引き寄せていうと、われわれはスポーツボランティアの「主体性」にあぐらをかいて（あるいは過信して）「調達」にほとんど関心を向けてこなかったし、同じ理由で「開発」にも「維持」にもしっかりと目を向けてこなかったのではないか。とくに総合型クラブの人材に対する維持（処遇）については、金銭的報酬に関わる議論が先行し、ボランティア・マネジメントの研究で盛んに議論されている多様なインセンティブ（非金銭的報酬を含む）について、正面から取り上げてこなかったように思われる。

表 人材マネジメントの課題例

| | 指導スタッフ | 運営スタッフ |
|-----|--|---|
| 調 達 | <ul style="list-style-type: none"> ・「外部から」「有資格者」に過度に固執しない ・クラブ内、地域住民からの有資格指導者の発掘 ・クラブ内、地域住民からの経験者（資格を取得していないがスポーツの指導や活動に熱意と能力のある人）の発掘 | <ul style="list-style-type: none"> ・「有資格者」「マネジメント業務経験」に過度に固執しない ・クラブ内、地域住民からのマネジメント業務経験者の発掘 ・クラブ内、地域住民からのスタッフ希望者・候補者（資格や技能をもたないがクラブの運営に熱意と能力のある人）の発掘 |
| 開 発 | <ul style="list-style-type: none"> ・外部の研修会、講習会等に関する情報収集と参加促進 ・クラブ内の指導スタッフ育成事業の機能化 ・スタッフが共有すべき「指導ガイドライン」の作成と定着 | <ul style="list-style-type: none"> ・外部の研修会、講習会等に関する情報収集と参加促進 ・クラブ内の運営スタッフ育成事業（能力を伸ばす機会・研修を受ける機会等）の機能化 |
| 維 持 | <ul style="list-style-type: none"> ・指導環境への配慮 ・多様な報酬への配慮 ・クラブの目標や夢を示す | <ul style="list-style-type: none"> ・事務作業環境への配慮 ・多様な報酬への配慮 ・クラブの目標や夢を示す |

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計2件)

作野誠一（2012）オーストラリアにおけるスポーツマネジメント研究及び教育の動向．体育・スポーツ経営学研究 26：73-78．

作野誠一（2013）少子化時代と運動部活動．現代スポーツ評論 28：48-59．

[学会発表](計2件)

Seiichi Sakuno “Community development and Sport Club Establishment in Japan”, 2013 International Conference of Sport, Leisure and Hospitality Management, (17-19 May 2013, National Taiwan Normal University, Taipei, Taiwan.) (招待講演)

作野誠一（2014）地域スポーツにおける人材マネジメント論の展開：ボランティア・マネジメントの視点から，日本体育・スポーツ経営学会第37回大会，（2014.3.19～21，新潟医療福祉大学，新潟市）

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況（計 0 件）

取得状況（計 0 件）

〔その他〕なし

6．研究組織

(1)研究代表者

作野 誠一（SAKUNO, Seiichi）

早稲田大学・スポーツ科学学術院・准教授

研究者番号：60336964